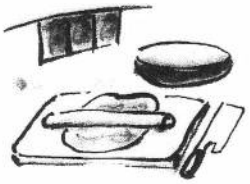
# 蕎麦屋を始めました



小笠原眼科クリニック
小笠原　孝　祐（盛岡市医師会）

とは言っても、眼科医院を閉じた訳ではありません。開業満20年を迎え、手狭になった施設の拡充を目的に増築を行ったのですが、１つだけわがままを通し、厨房横の余裕ができたスペースに蕎麦打ちの部屋を作りました。６月23日には後輩の眼科医が自家栽培し製粉した粉を頂戴し、蕎麦を振舞わせて頂きました。また、院内の食堂横に「清風庵」という看板を掲げました。「清」は現住所の洞清水から、「風」は千の風からとり、書は高校時代の恩師である高橋力先生に労をとって頂きました。定員は８席で、開店日は不定期で行事のない土曜日、手術が無い火曜日あるいは木曜日の午後６時～10時です。新蕎麦が出る10月末から３月までは十割と二八蕎麦、つけ鴨、つけ柏をメニューにし、蕎麦の力が弱る夏場に向けては、更科蕎麦を主に打ちたいと思っています。

最近、中学、高校時代の同級生と会って感じることは、50歳代までは各業界の中心となり、坂本龍馬の名言である「世に生を得るは事を成すにあり」を実践するようなハードな生活をしていた友人も60歳還暦を過ぎてからは力みがなくなり、趣味を中心とした年金生活をエンジョイし始めている同輩もいることだと思います。音楽、写真、絵画、書道、登山等々プロ顔負けの多彩な趣味を多くの友人が持っていることを知り、驚くとともに感心する世代にもなったようです。体力は確実に衰えてきても、新しいことにチャレンジしたり、知識を増やしたいという気持ちは永遠に持ち続けたいものです。これからが世界観を広げていく年齢なのかもしれません。

私の拙い蕎麦を食べに集まって頂き、蕎麦談義とともにお酒を交わしながらいろいろな方から話を聞き、人間の幅を広げることが出来れば、人生という作品に新たな１ページを加えることが出来るのではないかと思う今日この頃です。